

平成19年度 松本大学自己点検・評価報告書（抜粋）

1. 全学共通事項

（1）研究・補助金関係

- ・研究成果の発表
「松本大学研究紀要」第6号（通刊58号）、「地域総合研究」第7号発刊
- ・科学研究費補助金の交付：学部2名
- ・地域共同研究費 40件採択
- ・学外財団等研究費 5件採択

（2）教育関係

- ・アウトキャンパススタディ・サポーター制度による特色ある教育推進
- ・キャリアサポート体制の充実－入学前教育の充実（ウェルカムフェア開催）
- ・学生を自治体等の健康福祉の現場に派遣して実習体験をさせた。

（3）学生関係

- ・中越沖地震被災地へ約1ヶ月間学生・教職員ボランティア派遣。
- ・全学あげて新入生を歓迎するウェルカム・パーティー実施
- ・松本大学新聞86号～87号発行
- ・全学実行委員会形式での梓乃森祭（大学祭）の実施

（4）松本大学出版会関係

- ・中野和朗著 「続“幸せづくりのひと”づくり」
- ・呉 泰雄著「運動と栄養」
- ・地域総合研究センター編 「続老人達のおきみやげ」
- ・人間健康学部編「健康な地域づくりを目指して」

（5）国際交流関係

- ・アメリカ ユタ大学 語学研修 1名参加
- ・オーストラリア ニューカッスル大学語学研修 5名参加
- ・中国人民大学外国語学院との論文交流
- ・チェコのパルトビツェ大学との相互訪問及び共同研究の開始
- ・韓国 東新大学と交流 学生、教員の相互訪問

（6）広報関係

- ・第4回高校生アイデアコンテスト実施。「信州の名物料理の創作」
- ・ホームページをリニューアル
- ・2学年対象のキャンパス見学会を初めて開催
- ・県内高校吹奏楽部生のためのプロ奏者による公開クリニック（第3回）

（7）健康安全センターの設置

- ・学生、教職員の健康管理を担う健康安全センターを立ち上げた。

(8) キャリアセンターの立ち上げ

従来の就職課から、学生のキャリアサポートを総合的に担う「キャリアセンター」に改編した。

(9) エクステンション・センター関係

- ・ 人間健康学部開学部を記念して長野、松本に於いて公開市民講座「健康づくりは家庭から」を開催
- ・ オープンカレッジ「スポーツ選手のための食事セミナー」
- ・ オープンカレッジ「人にやる気・村に活気・地域づくり学習会」Part5
講演会・研修旅行
- ・ オープンカレッジ「女性企業家に学ぶ街おこし・村おこし・自分おこし」
講演会
- ・ パソコン講座・囲碁教室他
- ・ 中野学長と信濃毎日新聞社主筆中馬清福氏との公開対談「幸せづくりと平和」

(10) 施設充実

- ・ 学生用駐車場の増設
- ・ 職員駐車場の増設
- ・ 1号館外壁塗り替え
- ・ 野球場外野フェンス増設
- ・ 芝生グラウンドフェンスかさ上げ
- ・ 校内舗装改修
- ・ バリヤフリー対応として1号館ロビー、2号館情報センター入口にスロープ設置

(11) 財務関係

① 松本大学

新学部設置により学生数が増加し、学生生徒納付金が前年度比 222,494 千円の増加となった。補助金については経常費に対する補助金は年々圧縮されているため、新学部ができたにも関わらずあまり伸びはなかった。しかし、特別補助や地域共同研究の補助金が伸び、補助金全体では 63,564 千円の増加となった。その他の科目においても学生数増加の影響を受け増額となり、収入合計では、563,157 千円の増加となった。

支出の面をみると、新学部の設置により教員に採用が多く、278,813 千円の増加となった。また教育研究経費が、131,675 千円、管理経費が 33,922 千円と新学部増設により、増加となった。更に、6号館校舎建築の繰り延べ支払があり、その他の支出が 202,018 千円の増加となり、支出合計では 556,058 千円の増加となった。新学部に関する収入、支出額は更に完成年度の平成 22

年度まで伸びるもと予測される。

収支差額を単年度でみると 200,930 千円と収入超過となったが、大学設置時と人間健康学部設置時に法人部門から支出した投資額を、19 年度末に大学部門へ付け替えたため、次年度繰越資金は、1,441,038 千円と大幅な支出超過となっている。

消費収支では、新設校舎や備品関係などの減価償却費や基本金組み入れ額更には教職員数の増加による退職給与引当金などが嵩み、321,012 千円の単年度支出超過となった。

②松本大学松商短期大学部

安定的な学生確保が反映し、収入面では学生生徒納付金が前年度比 40,119 千円の増加となり、収入合計では 78,625 千円の増加となった。

支出面をみると、高額給与者の教員の定年退職と若手教員の採用などが影響し、64,921 千円の減少となった。反面、教育研究経費では、多彩なカリキュラムを反映し教育活動の活性化、または授業料に含まれるテキストの全学生に対する配布などにより 45,805 千円の増加となった。支出合計では前年度比 30,640 千円の減少となり、単年度の収支差額は 188,762 千円の収入超過で、次年度繰越資金は 1,982,370 千円となった。

消費収支の面においても 151,948 千円の単年度収入超過となり健全な決算となった。

(12) 後援会との連携

例年 5 月の最終土曜日に総会を開き、会長等役員改選、年間活動方針、予算・決算等の承認を行っている。

役員会は年 3 回（8 月・3 月・4 月）、会計監査は 2 回（12 月・4 月）実施した。10 月の大学祭では大学と協働でそば店を経営。入学式、卒業式、卒業パーティには役員が出席している。

学事報告を行なう中で、保護者に理解を求めると共に、要望も聞き出すようにしている。

(13) その他

①受託事業及び各種協定

- ・文部科学省「社会人の学び直しニーズ対応教育推進プログラム」に採択
- ・ホスピタリティカレッジー松本市、松本商工会議所
- ・地域振興のための協定ー松本市、安曇野市、高山市、池田町
- ・福祉増進のための協定ー松本市社会福祉協議会、山形村社会福祉協議会
- ・スポーツ振興のための協定ー信濃グランセローズ
- ・健康づくりのための協定ー諏訪市、塩尻市、南箕輪村、筑北村、辰野町

(社)日本公園緑地協会、(株)グラシアス、丸の内病院

- ②人間健康学部開学部記念式典挙行 4月28日
記念講演会 早稲田大学大学院 樋口 満教授
「健康の保持・増進に及ぼす運動習慣・食生活」
- ③信州大学より職員研修の受入
信州大学より研修のため事務職員を2名受入れ本学の実務を体験してもらった。
- ④松本商工会議所よりの職業訓練生の受入
松本商工会議所の公共職業訓練生の実習先として6名事務局に2ヶ月間受入研修。
- ⑤清泉女学院大学からの視察受入

2. 包括的な点検・評価と今後の課題

(1) 人間健康学部

新学部を軌道に乗せる活動が、学部長・学科長・各委員会委員長を中心に精力的に行われた。また、初年度の入学者数が当初予想と比べ思わしくなかったこともあり、開学部記念式典、公開市民講座、行政や企業との協定や事業展開、高校生アイデアコンテスト（料理の創作）など、広報面での活動も活潑に展開された。

(2) 学生募集と広報活動

学生募集の面では、総合経営学部の両学科、松商短期大学部の両学科とも好調に推移している。特に短大部は、フィールド・ユニット制のカリキュラム構成が、最近の若者のトレンドをよくつかまえている上に、献身的な内容努力が功を奏しているからだと思われる。

このような内部努力へのモチベーションを継続させる上でも、何らかの表彰を行うことも考えないといけない時期に来ている。

(3) 研究と教育 ー外部資金の獲得ー

研究と教育の両立、兼ね合い（個人的には時間配分、経営的には役割分担を含む総合的な推進体制の確立）を今後どう展開するかが課題となってくる。研究面では、科研費、地域共同研究などの競争的研究費の獲得や委託研究の受け入れ、教育面では各種G Pに象徴される競争的資金の獲得などへの対応が求められている。それを事務的な面からも支える体制作りが必要である。

(4) 学生生活の充実と施設・設備の課題 ー学部間の調整ー

学生生活の充実を図るための、施設・設備の充実が求められており、3つの学部間の調整も課題になってくる。3学部共通の課題と各学部独自の課題を整理し、規模が拡大した松本大学にあって、学部間の新たな関係作りが求められている。今年度は梓乃森祭の実施において、全学共同の取り組みが緒に付いた。

(5) 資格取得と成績管理システムの強化

数多くの資格取得が出来る教育システムとなりつつあり、資格取得のための必須科目の設 定など、各学生の希望と単位取得状況の現状などが一目で分かるような情報提供を含む管理システムの構築が、専任職員の配置を含め緊急の課題と考えられる。人間健康学部ではシラバス上での工夫も必要になってきている。

(6) 就職活動支援

これまで経済・経営系の学部学科であったが、今年度から新たな分野の学部学科が設置された。その結果、これまでのルーチン的な企業対応に加えて、新学部・学科に対応する企業（病院・福祉施設・食品関連企業・スポーツ系企業など）の新規開拓が大きな課題になってくる。また、多様な学生が入学してくる状況を踏まえ、教務委員会と連携して、リメディアル教育、初年度教育、就職試験対策などこれまでも増して、キャリアセンターに多様な活動が求められてくる。

(7) 短大部の新企画

「ウェルカム・フェア」は、すでに実施している教務や学生指導関係の行事にも影響が出ており、時期の問題等改善すべき問題も多々あるが、入学生や保護者に対しては効果があったと考えられる。また、この企画に参加した学生スタッフにも大きな学習効果が見られた。20年度も実施する方向で検討したい。

さらに、この企画を学部でも実施してはどうかという意見もあり、今後の検討課題となりそうである。